介護分野におけるオノマトペ表現の言い換え分析に基づく意味的特徴の調査

竹内 和広*　西村 由美**

An Investigation on Semantic Features of Japanese Onomatopoeic Expression in Nursing-care Context based on Paraphrase Analysis

Kazuhiro TAKEUCHI*　Yumi NISHIMURA**

要　旨

就業や研修のために来日した外国人は、職業現場でその現場の目的に応じた日本語習得を短期間で達成することが求められる。近年、政策的な背景から医療福祉分野、特に看護・介護の現場で就労する外国人が増加する見込みである。そのような現場では、日本語学習者が直面する言語運用においてオノマトペ表現が当然のように使用される。しかし、オノマトペ表現は日常生活から職業現場まで、広い範囲で使用されるにも関わらず、従来の日本語教育ではあまり扱われてこなかった現実がある。このような背景に対し、本研究では、オノマトペ表現の使用に単純な基本語彙の言い換えでない言語運用の側面があることを計量的に分析し、当該分野の特徴的文脈における意味を調査する。具体的には、介護分野で例文として採用されているオノマトペ表現を複数の日本語教師により言い換えたデータを作成し、そのデータに対する客観的な基準に基づいて言い換えの多様性を調査することにより、オノマトペ表現の意味的特徴を検討する。

1．はじめに

近年、経済・情報・人材の国際交流が活発になり、日本語に対する学習需要が高まっている。従来から就学のために日本を訪れ日本語を学ぶ学生は数多くいたが、現在では従来とは別の目的で日本語を学ぶケースが増えている。例えば、海外在住の非日本語話者が、日本のもつアニメや漫画といった文化に対する興味や日系企業のオフィスや工場での技術研修により日本語を学ぶケースである。このような日本語需要は、前者ではインターネットによる個人レベルでの国際文化交

*　大阪電気通信大学情報通信工学部
**　関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科大学院生

流の活性化、後者では経済の国際的流動化により、日系企業が特に中国をはじめとするアジア圏に海外拠点を増やしたことが背景に挙げられる。他方、少子高齢化が進む日本国内でも、介護・看護の分野に外国人労働者を求めるなど、非日本語母語話者が日本語を学ぶケースが増えている。

以上のようなケースの日本語学習あるいは教育が、従来の日本語の学習・教育と異なる点は、分野特化的、実用的であることを前提とした日本語の運用的側面が注目されている点である。すなわち、日本語学習のスタイルが、就学前に日本語教育の研修を受けた者が大学において日本語による教育を受けるという形から、基礎的な日本語の研修を受けたものが、日本語を使用する目的となる産業、職業、あるいは興味の中で、日本語を活用して目的を達成する形に変化している。本稿では便宜上、後者を目的別日本語教育と呼び、その前提となる一般的かつ基礎的な日本語教育を基本日本語教育と呼ぶ。

本稿は日本語におけるオノマトペ表現の意味特徴を調査対象とする。日本語において、物音や声、物事の様子や心情を日本語の発音で象徴的に写しとった表現は、音象徴語、擬音語・擬態語、オノマトペなど複数の名称を持つが、本稿ではこれらの総称として「オノマトペ表現」を用いる。また、オノマトペ表現の範囲には、オノマトペ辞典に掲載されている標準的な語だけでなく、形態の特徴によって標準形からの派生形と判断できる語も含むものとする。基本日本語教育の研究には、このようなオノマトペ表現の中で何を優先的に扱うべきかを検討した例がいくつかある。玉村（1989)、三上（2007）はそれぞれ、複数の教科書や辞書、言語資料を調査し、オノマトペ表現の基本語彙選定を試みている。中でも、三上の調査は幅広く、新聞や雑誌、映画やテレビのシナリオ、漫画などを対象にしており、このデータを基に、オノマトペ表現に特化した学習サイトが国立国語研究所により作成されている（「日本語を楽しもう〜擬音語・擬態語って？」http://dbms.ninjal.ac.jp/nknet/Onomatope/)。

他方、目的別日本語教育においては、目的となる分野が多岐にわたるために、オノマトペ表現を対象にした研究が豊富とは言えない状況ではあるが、本稿が対象とする、介護分野での日本語運用の研究として、石井（2010）が介護福祉士候補者に対するインタビュー調査を行っており、その調査結果として、就業前の日本語研修では学習が不足していた語彙群の一つとしてオノマトペ表現を指摘している。そのような背景から、介護・福祉分野では、オノマトペ表現の必要性が認識されており、例えば、国際交流基金が作成した学習支援サイトには、「擬音語・擬態語」として142語が取り扱われている（「日本語でケアナビ」http://www.nihongodecarenavi.jp)。

しかしながら、オノマトペ表現には以下のような特徴があり、目的別日本語教育における教育方法あるいは学習方法の扱いが難しいと考えられる。

- 文脈依存性があり辞書的な一般的記述が難しい
- 発話者がオノマトペ表現に込めた意味を客観性高く分析する手段がない

本稿では、以上の問題に対して、日本語教師が複数人で意見を出し、介護分野におけるオノマトペ表現の語彙知識を相互に確認し合い、教育の指針策定に資する語彙の意味的特徴を記述するデータ収集と調査を行った。具体的には、複数の日本語教師が当該のオノマトペ表現を特定の制限の中で言い換え、その言い換えの一致に基づいてオノマトペ表現の意味的特徴について論じる。

2．オノマトペ表現の文脈依存性

オノマトペ表現の使用は、分野や目的ごとに特色があり、語彙の意味を一般的に記述することは可能であっても、個別の文脈においてオノマトペ表現が包含する意味を十全に記述することは難しい。この特質を確認するため、我々はインターネット上の評価ウェブサイトでのオノマトペ表現使用の調査を行った（北中・秋吉・竹内，2010）。このようなウェブサイトでは、多様な書き手の意見として発話に近い形で個別の体験が表出されているため、オノマトペ表現の頻繁な使用が期待されるからである。対象としたウェブサイトを以下に示す。データはそれぞれ約１年分（2010年12月を最新とする）を収集し、出現上位表現の順位により傾向を検討する。対象とする分野は、本稿が目的とする介護分野のオノマトペ表現事例の収集を目的として、感情や身体感覚に関わる評価対象を想定し、介護関連、健康食品、の評価サイトから収集した（分野①、②）。また、特に皮膚感覚について多くの事例が集まることを想定して、化粧品の評価ウェブサイトも加えた（分野③）。

分野①：介護110番http://www.kaigo110.co.jp/
分野②：ケンコミhttp://www.kenkomi.net/index.html
分野③：@cosmeクチコミhttp://www.cosme.net/

調査対象とするオノマトペ表現は、複数の日本語学習向けの情報サイトで扱われている、基本的なオノマトペ表現と想定される184種類を選んだ。各分野の出現順位を**表１**に示す。

表１　オノマトペ表現184語の頻度上位10種

	①　介　護		②　ケンコミ		③　コスメ	
順	語	頻度	語	頻度	語	頻度
1	しっかり	549	しっかり	4565	しっとり	20778
2	きちんと	312	すっきり	2732	さらさら	16910
3	はっきり	304	しっとり	2057	しっかり	14151
4	ちゃんと	277	たっぷり	1893	きらきら	10118
5	ゆっくり	274	さっぱり	1739	びっくり	7269
6	いらいら	207	ぴったり	1305	さっぱり	7092
7	どんどん	189	さらさら	1029	ちゃんと	6894
8	びっくり	146	びっくり	981	ぴったり	6246
9	ほっと	113	さくさく	919	すっきり	6218
10	すっきり	72	ちゃんと	823	たっぷり	6036

表１の結果の傾向を端的に示す例として、「しっとり」「さらさら」の使用がある。『日本語能力試験出題基準（改訂版）』の語彙リストでは75語のオノマトペ表現が選定されているが、「しっとり」「さらさら」などの身体感覚を表現する語は採用されていない（国際交流基金他，2004）。

本調査の結果では、基本的なオノマトペ表現のうち、感情、身体感覚、動作様態に関わるオノマトペ表現が当該分野では使用頻度が上位に属することが示されており、一般的なオノマトペ表現のリストアップが、このような特定分野における使用傾向とは異なることを確認した（西村・竹内，2011）。

また、語彙の選定基準として、オノマトペ表現については「出題されることはあるが、その範囲、適否を決めることが困難」であるため原則として採用しないとされており、オノマトペ表現の分野依存性という特徴によって、学習項目として扱うことが困難だと認識されていることがわかる。なお、2010年度から実施されている新日本語能力試験のための語彙表にはオノマトペ表現を取り入れるべく選定を行っていることが報告された（秋元・押尾，2008）。つまり、日本語教育においてオノマトペ表現を扱う困難性とともに、教育の必要性も認識されてきたと言える。さらに、この調査対象となる分野①から③は評価の対象となる商品が同種になることを意図して選定した評価ウェブサイトであるにも関わらず、**表 1** では、それらの使用上位頻度語の傾向に相違があり、分野別の使用頻度の高い語を単にリストアップする形での学習や教育が難しい可能性を示している。

オノマトペ表現の意義記述を難しくするもう一つの性質として、新しい表現が次々に生み出さていく生産性（productivity）の問題がある。すなわち、オノマトペ表現は標準的な形態の音形を起源として、非標準的あるいは新規のオノマトペ表現を生産することが可能であり、理論上はあらかじめ表現の集合を網羅することはできない。このオノマトペ表現の特性を検討するため、既に述べた分野①から③の文書データに関して、オノマトペ表現の音形、例えば「ふわふわ」といった音の繰り返しといったパターンを用いて、**表 1** に示した一般的オノマトペ表現184語以外のオノマトペ表現の出現頻度を調査した。**表 1** と同様に各分野の上位10位までを**表 2** に示す。

表 2　音形パターンによるオノマトペ表現の頻度上位10種

	①　介　護		②　ケンコミ		③　コスメ	
順	語	頻度	語	頻度	語	頻度
1	ゆったり	25	ほんのり	845	さらっと	4101
2	ぼちぼち	21	さらっと	695	ふんわり	3676
3	くたくた	17	ふんわり	684	ぎらぎら	2736
4	すんなり	17	すーっと	350	ほんのり	2538
5	やんわり	15	ひんやり	194	ぱさぱさ	2532
6	さらっと	14	ふわっと	158	ふわっと	1819
7	ぱんぱん	14	さくっと	158	きしきし	1793
8	きちっと	13	じんわり	151	するする	1713
9	ひやひや	13	ぴりっと	147	すーっ	1568
10	べったり	13	つぶつぶ	134	ぽろぽろ	1456

表 2 が示すように、調査したどの分野においても一般的オノマトペ表現の使用は認められ、その出現数は**表 1** の各分野の10位語と比べても無視できない量と考えられる。また、一般的日本語の教科書では、音形が「さらさら」「ふわふわ」といった形のオノマトペ表現が出現することが

あっても、その変形とも捉えることができる「さらっ」「ふんわり」のようなバリエーションが扱われることはあまりない。しかし、**表 2** の上位にはそれらのバリエーションも出現が見られるため、同じ語基を持つ語については、学習者にどの形態を代表例として提示するかも検討すべき課題の一つとなる。

上記 2 点の特性は日本語教育において次のような問題をもたらす可能性がある。一つは、日本語教師や学習者が、その文脈において当該語の包含する意味を見極める上で、日本語教師を含む日本語母語話者の直感を判断する基準・方法が必ずしも明確でない点である。さらにもう一つは、特定の表現がオノマトペ表現であることが**表 2** の調査のように音形の形式から判断できたとしても、**表 2** が端的に示すように、教科書に掲載されていないオノマトペ表現に出会う可能性は低くなく、教育の現場において即応性高く判断を求められる可能性もある。このような問題意識の中で、言い換えという言語的手段を用いて、オノマトペ表現の意味を判断する場合の検討点について、次節以降では論じたい。

3．オノマトペ表現基本例文の言い換え

3．1　言い換え定義の多様性

既に述べたように、本稿では、日本語教師による言い換えデータに基づき、介護分野のオノマトペ表現使用について、その意味的特徴を考える。水谷（1958）は国語教育のための基本語彙が備えるべき条件の一つとして、「他の語で代用しにくいこと」をあげている。また、林（1984）は特に日本語教育に関連する基本語彙について「外国人のための教育基本語彙の特徴は、実際にそれだけで表現活動がまかなえるものでなければならないことである」と述べている。しかし、例えば、先の調査で出た「さらさら」「しっとり」などは、文脈によっては他の語で容易に代用できるが、その言い換えた表現で活動がまかなえるかが明らかではない。

このように、オノマトペ表現は、分野あるいは文脈依存性が高い性質に加え、副詞的用法が多い表現として付随的要素あること、他の基本語彙により代用可能とみなされてきたことから、その運用上の出現度合いを考えると基本語彙に含めてしかるべき存在であるにも関わらず、従来の一般的な教科書では扱いが難しかった現実がある。しかし、目的別日本語教育においては、学習項目としてオノマトペ表現を「その他」扱いすることには問題があることは明らかであり、分野における特定文脈でのオノマトペ表現についての言い換え調査を行うことは議論を進める手掛かりとして有用であると考えた。

本稿ではオノマトペ表現の言い換え調査に、日本語学習者への一般語による教示の経験を豊富にもち、語彙的な感覚にも優れた日本語教師による言い換えデータを収集するが、そもそも言い換えと呼ばれる現象は多岐にわたる。例えば、乾・藤田（2006）は、「言い換えは意味が近似的に等価な言語表現の異形」ととられ、意味の等価性を以下の大きな 3 種に分類する。

・内包的意味の等価性
・参照的意味の等価性
・語用論的意味の等価性

さらに第一の大分類の内包的意味の等価性に基づく言い換えを便宜的に語彙・構文的言い換えと呼び、次の小分類に対象を絞って議論を行っている。

・統語的言い換え
・語彙論的言い換え
・語彙構成的言い換え
・推論的言い換え

このように言い換えを定義する観点は多種多様にわたり、日本語教師という言語の専門家であれ、言い換えを行う際の意味等価性の直感的な価値判断には「ずれ」があると考える。本稿では、そのような直感的な言い換えを調査方法として用いた場合の意味等価性を判断する客観的な基準を設け、特定表現を用いた言い換えの多様性とその多様性が生じる原因について検討する。

3．2　言い換え事例データの収集

本研究では、日本語学習支援サイト「日本語でケアナビ」から、オノマトペ表現を用いた170の例文をデータとして採用した。このサイトの例文を採用した理由は、左のサイトが介護看護分野の日本語教育で一般に用いられており、本稿の読者が容易に参照できることに加え、例文が当該分野における種々の文脈の教材として使用できるように適切に設計されているからである（上田，2007）。なお、サイト上で「擬音語・擬態語」として分類されているのは142語であるが、全例文を調査した結果、他の分類項目の中にもオノマトペ表現が見られたため調査対象として加えた。これらの例文を言い換え元の文として、一つの項目に対して3種類の言い換えを作成する、記述式アンケート調査を行った。作成者は4名の日本語教師である。辞書で調べたりせず、思いついた順に3つの言い換え表現を書くよう指示したが、3つが困難な場合は1つか2つでも良いとし、言い換える表現の記述長に制限は設けなかった。

記述の際、共通の文脈を想定できるよう、アンケートの説明部分にすべての例文が介護・看護の職場で使われる発話であることを明記したうえで、各例文にその発話の「話し手」と、必要に応じて「場面」も明示した。「話し手」や「場面」は、「日本語でケアナビ」で示されている設定に従った。「日本語でケアナビ」で特に話し手の明示がなく、複数の区分の話し手が想定される場合には、アンケート上にも話し手の提示をしなかった。話し手の区分はスタッフ・医師・患者や利用者・家族の4区分である。「スタッフ」の内、特に上下関係が関わる文には「上司→スタッフ」と書いた。以下にアンケート項目の一例とその結果を示す。

例）［書き換え元］　1．風邪をひいて、声が　［ がらがらです ］。（話し手：患者・利用者）
　　［書き換え　］　　①　割れています
　　②　出ません
　　③　かすれています

本調査で言い換えを考察する中心となるのはオノマトペ表現が意味する部分である。その意味

的な特徴を捉えるため、本節で説明した４名の日本語教師の言い換え例について、どのような意味属性については一致あるいは不一致なのかを検討する。

４．分析

４．１　複数の言い換え基準

３．２節で説明した言い換えデータに関して、オノマトペ表現の言い換え例がどのように一致するかを客観的な基準を設けて検討する。具体的には、言い換えの回答を同じと見なす基準が厳格な順に、０から２までの３つの基準を設けた。基準０と１は言語表層的、基準２は意味的な内容を含む基準である。

基準０：単純な文字列一致による判断
基準１：アスペクトやモダリティなどの言語表層による条件付けで一致を判断
基準２：『新和英中辞典』を用いて意味的な内容まで含んで一致を判断

基準０は、文字の系列として完全に一致しているかどうかを基準とする。そのため、例えば、「お腹をかかえて笑う」「腹をかかえて笑う」は異なる回答と判断する。

基準１には、６つの下位項目があり、以下にかかわる文字列の違いは同じ回答と見なす。

１－１：アスペクト（例）震えます≒震えています
１－２：モダリティ（例）落ち込んだ≒落ち込んでしまった
１－３：語形性（「不」「非」などによる漢語化、複合化）
（例）注意不足≒不注意／安定していない≒不安定
１－４：語種（例）お腹をかかえて≒腹をかかえて／激しく怒って≒激怒して／
大きな声≒大声／元気がありません≒元気がない
１－５：意味的主辞（例）針で刺すように痛みます≒針で刺されているように痛いです／
何か探しものをしている≒何か探している／何かさわやかな≒さわやかな
１－６：肯定・否定（例）調子が悪い≒調子がよくない

基準２には『新和英中辞典』（第４版，研究社）を用いた。収録されている見出し語は約70000語（総項目135000）である。和英辞典を用いたのは、第二外国語として学ぶ場合に、どの範囲までを「同義語」として扱う可能性があるかを検討する第三者にも追試可能な基準であるからである。また、意味内容に踏み込む基準であるため、基準１、２に比して緩い基準となる。

具体的には、和英辞典を使った一致の判定例には次のようなものがある。

歩き回る＝［ wander（about）］＝徘徊する
密かに＝［（in）secret ］＝隠れて
湿度＝［ humidity／humid ］＝湿気

辞書の記述には英語訳の候補が複数並べられているが、その順序は考慮せず、各見出し語の英

訳の中に共通の語があれば、同義と見なした。例えば、「歩き回る＝walk [go] about；pace around [about]；wander」「徘徊する＝wander [roam] about」と記述されているが、共通している[wander]によって判断した。ここでは本研究の目的を鑑み、包摂・類義などの語同士の意味的関係にかかわらず、教育上「ほぼ同じ」と説明する可能性がある語を同義としている。和英辞典を使うことは、同義語の統制に役立ち、より高度な学習者向けの同義性を扱うには、収録語彙数の多い和英大辞典や専門分野の和英辞典を用い、さらに詳細な条件付けを設定して、「同義」を定義することができる。このように基準２は、言語の多様性のうち、同義語に関する多様性を寛容して意味的一致を見る目的をもった基準である。

４．２　オノマトペ表現の一致傾向の分析

アンケート調査から得られた、４名による言い換えの一致傾向を、４．１節の３つの基準に従いまとめた表を**表３**に示す。最左列は、回答の一致の度合いである。４人の日本語教師の言い換え回答は、１つの例文につき、一人最大３種類であるため、全員のすべての言い換えが全く異なる場合、最大12種類の言い換え表現が得られる。ここで、一致の度合いは４名が一致した表現が１つある場合を「４者一致」、３名で一致の場合を「３者一致」とし、まったく一致しない場合を「一致せず」とした。「中間的一致」に分類したのは、一致しないわけではないが、一致する例が最高でも２者までである例である。なお、一人が３例ずつ例出しているため、「３者一致」の例と「４者一致」の例がある場合は、より多くの人数で一致する例に分類した。例えば、「４名一致の回答が１つ＋２名一致の回答が１つ」の場合は、「４者一致」に分類し、「中間的一致」には分類しない。

表３．複数の一致基準に基づく言い換えの一致傾向

	基準０		基準１		基準２	
一致傾向	当該数	％	当該数	％	当該数	％
４ 者 一 致	23	13.53	27	15.88	52	30.59
３ 者 一 致	26	15.29	42	24.71	52	30.59
中間的一致	79	46.47	79	46.47	47	27.65
一 致 せ ず	32	18.82	22	12.94	19	11.18
計	170	100.00	170	100.00	170	100.00

表３から分かるように、厳しい基準である基準０および１の場合は、３者以上で言い換え例が得られるのは全体の40％程度にすぎず、約半数のオノマトペ表現については、日本語教師にそれぞれに対して３例もの言い換え例を出してもらっても、オノマトペ表現の言い換えが多様であることを示している。注意すべきは、この不一致の傾向は単に言語一般の表現多様性から生じているのではなく、基準２の和英辞典を利用し意味的内容に踏み込んで同義語の多様性を吸収した上でも、「中間的一致」「一致せず」の一致傾向をもつオノマトペ表現の事例は170例中の約40％存在する点である。こういった言い換えの不一致に対する分析については４．３節で考察する。

ここでは、まず、言い換えが一致する例について分析しておきたい。分析対象としたのは、明らかな一致傾向が見られる「３者一致」「４者一致」の事例である。そのような事例は、典型的

な言い換え例を当該文脈での代表的意味としてとらえることが可能と考えられる。具体的には、一致傾向の高いオノマトペ表現は以下の①から③の分類をすることが可能である。なお、例の語に括弧内数字で示したのは言い換えが一致した人数である。

① 一語で言い換えが可能
例）［ぎゅっと］手を握ってください。→強く（4）
他の例）ささっと（簡単に）・そっと（静かに）・たっぷり（たくさん）・すっかり（完全に）

② オノマトペ表現から想起される動詞が一致
例）歩き過ぎて、膝が　［　がくがくです　］。　→震えます（4）
他の例）くたくた（とても疲れる・疲れ果てる）・そわそわ（落ち着かない）

③ 端的な類義表現が複数ある
例）花見が中止になって、［がっくりしました］。
→残念です（3）／肩を落としました（3）／落ち込みました（2）／落胆しました（2）
他の例）ほっとする（安心する・一安心する・安堵する）・かさかさする（乾燥する・乾く）

上記①のタイプは、副詞的役割を果たし、他の副詞一語で言い換えることができる。一致するパターンで最も多いだけでなく、どの基準でも一致数が高く、基準0でも「3者一致」以上に分類される。時間・量にかかわる表現が中心である。

②はオノマトペ表現に「～です」「～する」が後続する形容詞・動詞型で、身体の状態、動きを表現する語が中心である。そのため、言い換えにはモダリティやアスペクト表現が加わることが多く、基準0では一致数が低くなる。ここで考える必要があるのは、オノマトペ表現がある状態や状況をどのようなものか描写するだけでなく、一般動詞としての意味も併せ持つことである。

例文の「がくがくです」の言い換えは「震える」で4者一致だが、他の表現は、「力が入らない」「うまく動かない」「痛くてしびれている」などに分かれているため、例文が「がくがく震えます」の場合は、一致しない可能性が高い。その例として、「田中さんは寒くて［　ぶるぶる　］震えています。」では、回答は2者一致の「小刻みに」のみである（他は、体を大きく／全身で／寒そうに／大きく揺れるように）。つまり、想起される動詞がある程度限定されるオノマトペ表現については、副詞型で動詞が後続する場合に、より精緻な状況や状態を表現している可能性がある。他にも「ボールが［コロコロと］転がりました」、「母は病気［げっそり］痩せました」といったオノマトペが意味を限定する場合もオノマトペ表現に関連する動詞が後続しており、それぞれ2者一致するに過ぎなかった。このようにオノマトペ表現が特定の状況や状態を精緻に描き出す性質から、後続する語が動詞に限らず、オノマトペ表現から一般的に関連する語が後続している場合には、さらに精緻な描写を言い換えで表現しようとするため、言い換えがかえって一致しない場合があると推察される。つまり、言い換え調査の結果、言い換えが一致しているオノマトペ表現であっても、言い換えた一つの語では当該の文脈におけるオノマトペ表現の持つ意味を十全には表現できていない可能性があり、この可能性が次の4．3節で述べる不一致傾向につ

ながるオノマトペ表現の意味的特徴の本質と考えられる。

③のタイプはそれほど多くないが、感情や身体感覚を表現する語で、オノマトペ表現に代わる端的な類義表現が複数存在するものである。感情や身体感覚を表すオノマトペ表現は、言い換えが一致しない例の方が多く、これらについても次節で詳しく述べる。

その他、和英辞典を用いて分類すると、一致率が高くなる語には、「じわじわ（痛くなる）」（徐々に・次第に・少しずつ）、「すっきり（した目覚め）」（気持ちのいい・快い／さわやかな・爽快な）などがある。時間の経過にかかわる副詞で類義表現が多い語、快不快のみを端的に表現する語は、和英辞典を用いて同義語の多様性を吸収した基準では一致する傾向があると言える。

4．3　言い換え不一致例の分析

表 3 において、日本語教師による言い換えが一致しない例について分析を行った。その結果、4．2 節の言い換えに一致の傾向がみられる事例とは異なり、各日本語教師の出すオノマトペ表現の言い換え例の記述長がまちまちであることが明らかになった。特に、記述長が長くなる言い換えの傾向を傾向Ａ，Ｂとして以下に例を示す。

言い換え傾向Ａ：二つ以上の表現を組み合わせる
　例）道が混んでいて［いらいらします］。
　　焦って落ち着かない／じれったくて不快

言い換え傾向Ｂ：説明的・描写的表現になる
　例）喉が［　いがいがします　］。
　　何か引っかかったように感じます／針でつつかれているような感じです
　　／とげが刺さったような感じがします・・・

上記の傾向Ａの「いらいら」は、辞書の記述に「ものごとがうまく運ばないために焦ったり落ちつかなかったり、また腹を立てたりしている様子」（山口，2003）とあるように、「焦り」「腹立ち」など複数の感性極性を含む語を用いて説明されている。我々の言い換えデータでも、「焦ったり、腹が立ったりします」のように複数の感情を組み合わせた言い換え表現と同時に、「焦る」「腹が立つ」など一つの感情のみで言い換えた例もあるため言い換えの多様性が広がっている。一見、これは日本語教師の言い換えに端的な表現を求める方向での基準を設けなかったことが理由という仮説が考えられるが、そのような仮説は、言い換え語の組み合わせに一定の傾向があることを説明できない。

傾向Ｂの典型は痛みや刺激などを表す語である。これらの言い換える例も、その語彙の選択は、無制約ではなく、主に 2 つの明らかな表現類型が存在する。一つは「〜ように感じる」「〜ように痛む」などを伴い、その刺激の原因を作り出す物を明示することによって痛むさまを表現する方法である（例：錐で刺すように・ドラムを叩いているように）。これらに準じる表現方法として、物は明示しない「割れるように・響くように・熱を持ったように」などもあった。他方は、刺激や痛みそのものの程度を表示する例である（例：とても・ひどく・激しく）。また、痛みの

原因を作り出す「物」のイメージが共通している場合は、言い換え表現も意味的主辞は一致する傾向も見られる（例：胃がきりきりする→錐で刺すように痛む)。「きりきり」と「錐」が同音であることも、共通する「物」を想起させる理由であろう。

日本語教師が行った以上の傾向Ａ，Ｂをもつ具体的な言い換え例を、予備的に調査した際に明らかにした感情、身体感覚、動作様態といった介護分野の文脈において特徴的である評価対象ごとに、オノマトペ表現を具体的な言い換え語句と共に分類・整理したものが、**表４，５，６**である。評価対象が、感情であれば、一般的感情語と動作的側面を表す表現、身体感覚であれば一般感覚語とその様態的側面を表す表現、動作様態では動作を表す語（動詞）とその動作に関する評価性に関わる表現という形でオノマトペ表現の言い換え事例から、オノマトペ表現の意味的特徴を分類・整理することができる。

表４　感情を対象とするオノマトペ表現

	一般感情語	動作性（外面変化）	その他（内面）
いらいら	焦る 腹が立つ 怒り（がこみあげる） じれったい	八つ当たり 落ち着かない	【不快】 （じれったくて）不快
うきうき	嬉しい 楽しい	浮かれる はしゃぐ	【心の動的側面】 心弾ませる 心を躍らせる
かんかん	怒り	【身体部分変化】 目を三角にして 顔を真っ赤にして 頭に血をのぼらせて	【程度】 激しく 非常に

表５　身体感覚（痛み・刺激）を対象とするオノマトペ表現

	一般感覚語	外的要因	その他
いがいが	かさつく 〜感じ	何かでひっかかれた 針でつつかれている とげが刺さった	異物感
がんがん	痛い	ドラムをたたく シンバルを鳴らす なたで割る （割れる・響く）	【程度】 とても ひどく 激しく
ちくちく	かゆい 刺激的	針が当たる とがった物に刺される 毛糸が	【不快】 着心地が悪い

表６　動作様態を対象とするオノマトペ表現

	動詞	評価性	その他
きょろきょろ	見る 見回す （視線を）動かす	せわしなく 落ち着きなく	【空間】 あちこち・四方八方 周り・前
ぐずぐず	動く 怠ける 手間取る	いやそう 悠長に どんくさく・鈍重	

以上の表の分類には当てはまらない例も当然存在する。例としては、動作様態を表現する「きちんと」「しっかり」「ちゃんと」などがある。これらの言い換えは一致しないが、上記の傾向A，Bとは異なり、短い記述長で表現される。「きちんとおむつの始末をしてください」は「正しく・適切に・きれいに・決められた通りに」、「私の腕をしっかり持ってください」は「強く・かたく・確実に・力を入れて」、「彼女はちゃんと仕事をしています」は「まじめに・堅実に・確実に・規定通り」などである。これらは一つの側面のみに言及しており、複数の側面を組み合わせる必要はないものの、言い換えを行う者の個別的な発話・記述スタイルに起因して言い換えが一致しない例と考えられる。実際、**表4～6**に挙げたオノマトペ表現と比較すると、音韻と様態の関連、身体との直接的な関係が感じられないことが特徴であり、一般副詞に近い働きをするとことから形式的に判断が可能である。また、このような副詞的表現は、口語において頻繁に使われる傾向があることも知られている（西村，2009）。このことから、**表4～6**のように整理したように、文脈依存性の高いオノマトペの意味的特徴は、当該の文脈で複数の評価対象に言及しているかを視座に、分野依存の行動に関係する複数の側面から言い換えを確認することが有益である。

以上のように、言い換えにおいて一致が見られないオノマトペ表現は、当該の文脈において、一般語を使って一言だけで言い表すことが難しい表現であると言える。そのようなオノマトペ表現の文脈依存性は、本研究の調査が示すように、一人の日本語話者の基準を持たない直感的判断では判定は容易ではなく、どのようなオノマトペ表現でも、単純な一般語1語で十分に言い換えることが適切と考えるべきではない。すなわち、目的別日本語教育におけるオノマトペ表現の教示には、本稿の結果を踏まえ、当該文脈での複数の言い換え表現に基づいて意味的特徴を検討することにより、オノマトペ表現の意義を慎重に判断すべきであると言える。

5．まとめ

本稿では分野、文脈依存性が高いオノマトペ表現を日本語教育で教示する際の基準となる意味的特徴を、複数の日本語教師による言い換え事例調査に基づいて検討した。その結果、介護分野の教材例文に存在するオノマトペ表現を複数の日本語教師によって基本的な日本語表現を用いて言い換えた場合でもその結果には多様性があり、教示に適した共通性を持つオノマトペ表現の言い換え例を用意する上で留意が必要なことを示した。すなわち、母語話者同士の場合は、オノマトペ表現の示す意味を文脈に応じて柔軟に判断することができるため意識することが難しいが、日本語学習者に明示的に説明するためには、当該文脈においてオノマトペ表現の言い換えがどのような点で多様になりうるかを把握する必要性を指摘した。また、それらの多様性は、同義語の存在という言語的多様性を取り除いても、完全には排除できないことも示した。具体的には、言い換えに多様性がある例の分析を行い、当該のオノマトペ表現の意味的特徴を、介護分野における典型的評価対象を分類の軸として整理した。このように、本稿の知見の日本語教育における意義は、辞書で網羅的に記述が難しい文脈依存型オノマトペ表現の意味特徴を規定する上での調査方法および調査に基づいた整理例を示したことにある。また、本稿が提案した複数人による言い換え分析は、介護分野だけに限らず、他の目的別日本語教育においての直感的言語表現の意味的特徴を調べる上での客観的分析手法として有望であると考えている。今後は、言い換えによる分析手法をより精緻に発展させていきたい。

謝辞

この研究は科研費（課題番号21500113，課題名：「医療福祉分野における日本語学習・運用支援のための対話例集構築支援の研究」，研究代表者：竹内和広）の支援を受けた研究の成果である。

参考文献

1．玉村文郎（1989）「日本語の音象徴語の特徴とその教育」,『日本語教育』, No.68, pp.1-12, 日本語教育学会
2．三上京子（2007）「日本語教材とオノマトペ表現」,『日本語学』, No.26（7）, pp.36-46, 明治書院
3．石井容子（2010）「介護福祉士候補者着任前日本語研修のための専門語彙教材の開発」, 2010年度日本語教育学会春季大会予稿集, pp.357-358
4．北中佑樹，秋吉信吾，竹内和広（2010）「日本語教育に向けたオノマトペ表現データベースの構築」, 日本知能情報ファジィ学会第20回ソフトサイエンスワークショップ講演論文集, pp.49-52
5．国際交流基金・日本国際教育協会編（2004）『日本語能力試験　出題基準【改訂版】』, 凡人社
6．西村由美, 竹内和広（2011）「目的別日本語教育におけるオノマトペ表現の重要性」, 言語処理学会第17回年次大会発表予稿集, pp.1011-1014
7．秋元美晴, 押尾和美（2008）「新しい日本語能力試験のための語彙表・漢字表作成中間報告－新語彙表ver. 3の完成まで (特集語彙の研究と教育)」,『日本語学』, No. 27（10）, pp.36-49, 明治書院
8．水谷静夫（1958）「基本語彙と語彙調査」,『国語教育のための国語講座第4巻語彙の理論と教育』, pp.256-302, 朝倉書店
9．林四郎（1984）「私の「基本語彙論」」,『日本語学』, No.16, pp.32-38, 明治書院
10. 乾健太郎, 藤田篤（2006）「言い換え計算モデルの工学的実現への語彙意味論的アプローチ」レキシコンフォーラム, No. 2, pp.27-55
11. 上田和子（2007）「看護・介護のための日本語教育支援データベース開発調査をめぐって」,『国際交流基金日本語教育紀要』, 第3号, pp.183-190, 独立行政法人国際交流基金
12. 山口仲美（2003）『暮らしのことば　擬音・擬態語辞典』, 講談社
13. 西村由美（2009）「対話コーパスから見た日本語母語話者と学習者のオノマトペ使用の特徴～日本語教育におけるオノマトペ指導に向けての基礎的研究」,『言語コミュニケーション文化』, 7（1）, pp.97-111, 関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化学会

（平成23年12月12日受付　平成24年1月25日最終受付）